

活動紹介!

東久留米ニューハーモニー

東久留米ニューハーモニーはカラオケのサークルです。会館で20年近く活動しています。東久留米市歌謡連盟に所属し、年3回、7月、9月、11月に、市のまろにえホールで他の団体と合同で発表会を行っています。

日頃の活動の流れは、前半、全員で課題曲を歌い、後半は、各自の得意な持ち歌を一人ずつ順に歌って、それらをひと月毎に仕上げていきます。

現在30名程のメンバーが、感染対策をしながら熱心に活動を続けていらっしゃいます。



8月の催しから

- 6(土)
西園ピアノ・バイオリン教室
発表会 
- 7(日)
アレグロピアノ / 発表会 
- 10(水)・11(木)
角萬フロレス 
- 13(土)～16(火)
成美教育文化会館夏季休館日
- 20(土)
英語スピーチコンテスト 
- 26(金)・27(土)
ぴゅあと～んピアノ / 発表会
- 28(日)
武蔵野北高校 OB 吹奏楽団発表会
演劇広場 

これらはあくまでも予定ですので変更もございます。一般の方の参加の可否等、詳細は主催者までお尋ねください。

会館事務室から



今月の話題 - 2025年の崖

2025年の崖とは、複雑化、老朽化、ブラックボックス化（内部構造や動作原理がさかのぼって解明できない状態になること）したこれまでのITシステムが残存した場合に想定される、国際競争への遅れや我が国の経済の停滞のことです。

具体的には、システムの維持管理費用の高額化。保守運用の担い手不足。若い才能あるIT人材が老朽化したシステムの保守運用にとられることによって、先端技術の活用や開発への力がそがれることなどが指摘されています。

経済産業省では、このままの状態が続けば、2030年にかけて年間12兆円の損失を被るとしています。この崖を乗り越えるために今叫ばれていることがDX（デジタルトランスフォーメーション）です。これは、我が国の産業が国内外で優位を築いて、事業が続けられるように、デジタル技術を駆使して仕事の進め方を変革していこうというものです。2025年まであとわずか3年です。各企業は、計画的に見通しをもって様々な対策を講じて来ているとは思いますが、この崖をうまく乗り越えて、さらなる発展を期待したいものです。

